

しじょうきんごどのごへんじ
四条金吾殿御返事

ふかしやくしよりようこと
(不可惜所領の事)

御書新版 1583 10行目〜12行目
御書全集 1163 15行目〜1164 1行目

いっしょう

夢

一生はゆめの上、明日をごせず。い

こっじき

かなる乞食にはなるとも、法華經に

瑕

きずをつけ給うべからず。されば、

歎

同じくはなげきたるけしきなくて、

じょう

書

この状にかきたるがごとく、すこし

諂

もへつらわず振る舞い仰せあるべし。

なかなか

中々へつらうならば、あしかりなん。

悪

語句

この状

よりとちんじょう

「頼基陳状」(新1568・全1153)のこと。

主君の江間氏から、「法

華經を捨てなければ、所領を没収する」との命令書が四条金吾に下

された。その報告を聞かれた日蓮大聖人が、金吾に代わって認めた

長文の弁明書。

通解

いっしょう

ゆめ

うえ

できごと

一生は夢の上の出来事のようにであ

り、

あす

明日のことも分らない。ど

のようなつらい境遇になっても、

法華經に傷を付けてはならない。

きず

それゆえに、同じ一生を生きる

のであれば、

なげ

嘆いた様子を見せな

いで、私がこの陳状に書いたよ

うに少しもへつらわず振る舞い、

語っていきなさい。なまじへつら

うならば、かえって悪くなるであ

ろう。